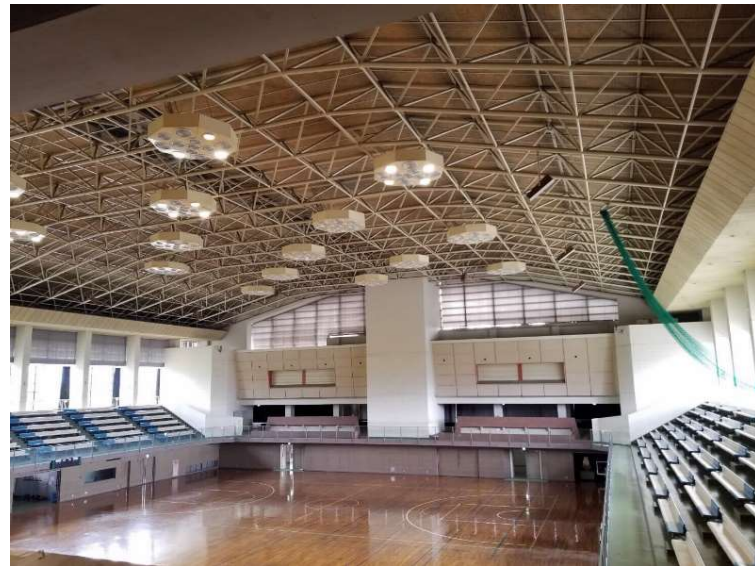


長野運動公園総合体育館整備基本計画

概要版



令和4(2022)年 8月

長野市

文化スポーツ振興部スポーツ課国民スポーツ大会準備室

I 計画の位置づけ

「長野運動公園総合体育館整備基本計画」は、「長野市国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会施設整備計画」（令和4（2022）年3月30日決定）において建て替えを決定した長野運動公園総合体育館の整備方針や事業手法等、今後事業を進めていくために必要な事項を取りまとめたものです。

本市における上位計画、関連計画

（第五次長野市総合計画、第三次長野市スポーツ推進計画、長野市公共施設等総合管理計画など）



国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備における方針、計画等

- ・ 公共施設適正化検討委員会からの提言（令和4（2022）年3月）
- ・ 長野市国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会施設整備計画（令和4（2022）年3月決定）など



長野運動公園総合体育館整備基本計画

長野運動公園総合体育館建て替えにあたっての整備方針や事業手法等

Ⅱ 総合体育館の現況・整備方針

総合体育館の課題

- 竣工後43年経過による施設の老朽化
- バリアフリー化不足により全国障害者スポーツ大会の開催に支障
- 空調設備の不備、観客席数、トイレ数、運営諸室の不足などの理由により、大会(試合)の開催が敬遠され、ホワイトリングに大会(試合)の開催希望が集中
- 高齢者・障がい者対応、空調設備の不備など、大規模な指定避難所として望ましい機能が不足
- 大規模大会開催時の駐車場不足（主に休・祝日） ※長野運動公園共通の課題

将来の本市の大規模体育館のあり方

総合計画施策	カテゴリー	役割	施設	主な用途
スポーツを通じた交流拡大の推進	●交流人口拡大 ●プロチームとの連携		ビッグハット	◆ 興行的な大規模スポーツイベントの開催
			ホワイトリング	◆ 観客数 6,000人程度までの大会開催 例：Bリーグのホームゲーム 国際大会、全国大会、北信越大会 など
			長野運動公園 総合体育館	◆ 観客数 2,000人程度までの大会開催 例：Fリーグのホームゲーム 全国大会、北信越大会、県大会、北信大会、 高体連、中体連主催大会 など
誰もがスポーツを楽しめる環境づくりの推進	●生涯スポーツ推進 ●競技力向上		南長野運動公園 体育館	◆ 観客数 500人程度までの大会開催 例：北信越大会、県大会、北信大会、 長野市大会、高体連、中体連主催大会 など
			豊野体育館 信州新町体育館	◆ 長野市大会等、他の大規模体育館を予約できなかった大会の受け皿として活用

※これまでは、観客数や大会の規模に関わらず、空調等の設備が整ったホワイトリングに開催希望が集中

〈参考〉開催が想定される主な大会等の例（本市の開催実績から）

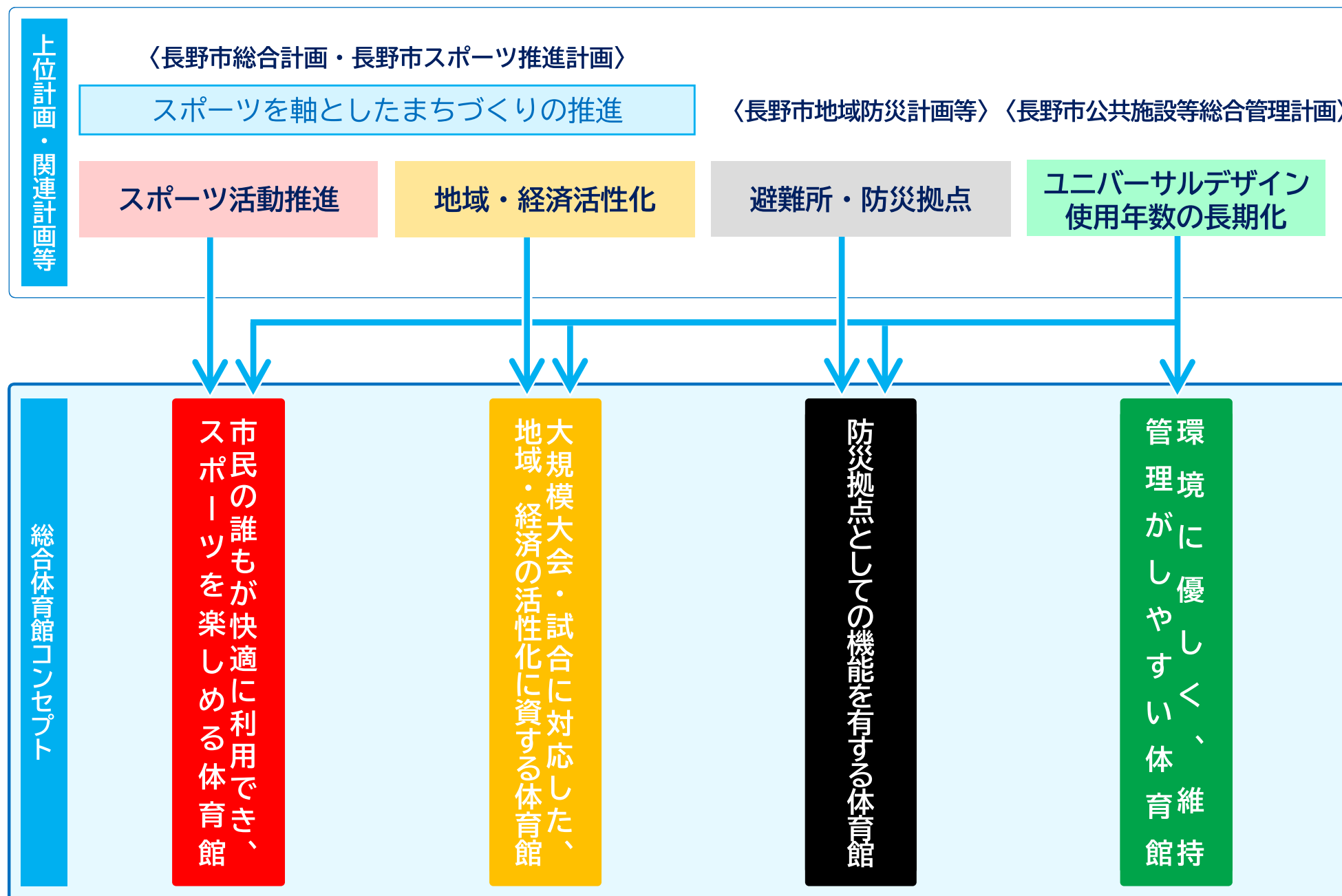
施 設 名	大 会 等	参加者・観客等人数
ビッグハット	全日本フィギュアスケート選手権大会	約5,000人※ ¹
	全日本アイスホッケー選手権大会	約3,000人※ ¹
ホワイトリング	B 1 リーグ	会場要件：5,000人以上
	ワールドカップバレーボール	約6,000人
	全国高等学校総合体育大会（柔道、卓球など）	約3,400人～4,000人
長野運動公園総合体育館	F リーグ ディビジョン1	会場要件：1,000人以上※ ²
	V リーグ ディビジョン2、3	会場要件：1,500人以上※ ³
	東日本医科学生総合体育大会バスケットボール大会	約1,500人
	北信越高等学校総合体育大会（卓球、体操、柔道など）	約700人～1,500人
	北信越中学校総合競技大会（バドミントン、体操など）	約600人～1,400人
南長野運動公園体育館	全日本フットサル選手権大会 北信越大会	約500人
	北信高等学校総合体育大会（バスケットボールなど）	約500人
	北信地区中学校総合体育大会（バドミントンなど）	約500人

※¹ 人数 … 1試合あたりの想定人数

※² 1,000人 … Fリーグクラブライセンス交付規則に定める、ホームアリーナ（準ホームアリーナ含む）入場可能者数（F 1・F 2 共通）。クラブライセンス交付規則制定時は2,000人。

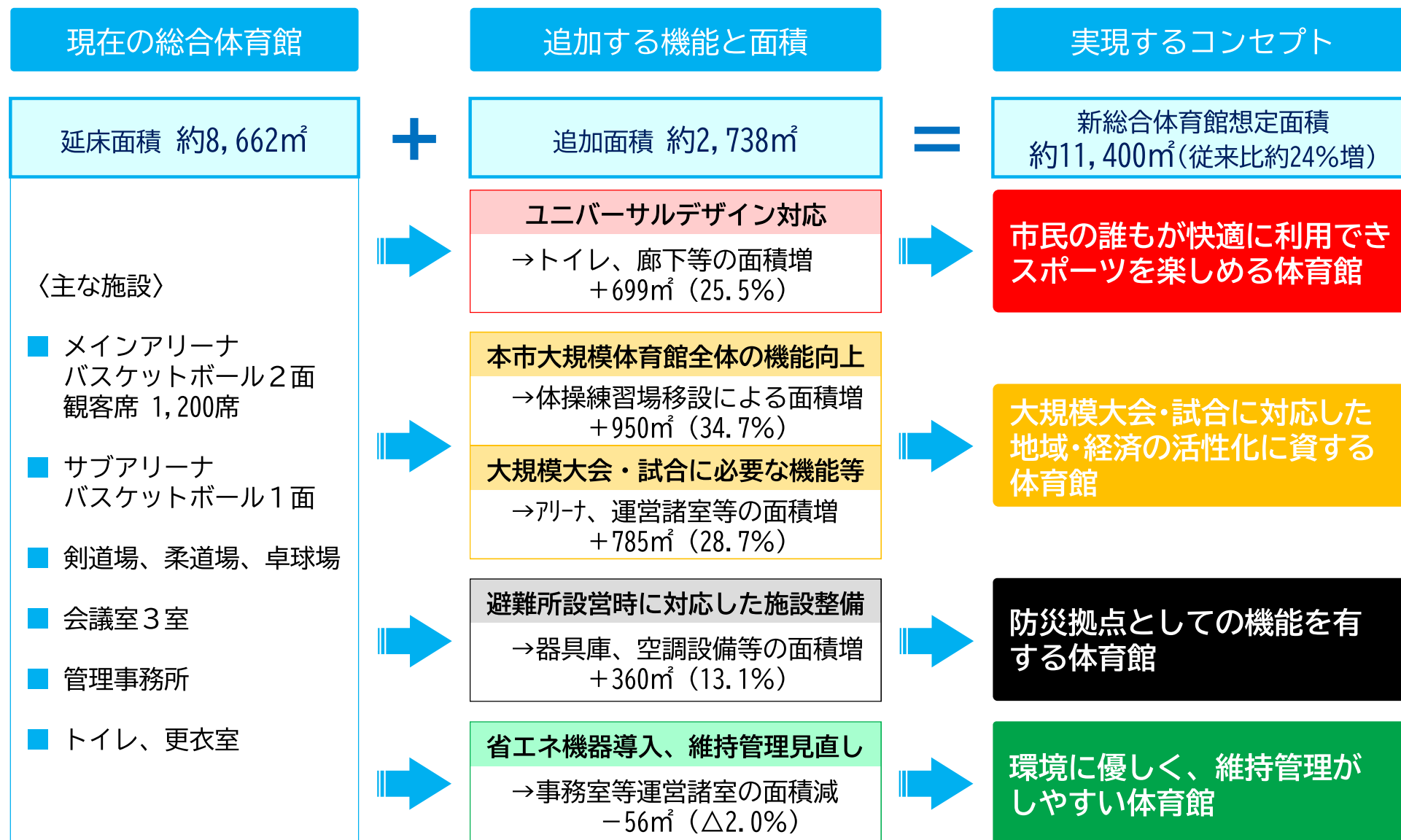
※³ 1,500人 … Vリーグライセンス交付規則に定める、V 2 リーグのホームゲームを開催するアリーナの入場可能人数
 ① S 1（V 1 リーグ）：3,000人以上（VC長野トライデンツ／南箕輪村）
 ② S 2（V 2 リーグ）：1,500人以上（ルートインホテルズ プリリアントアリーズ／上田市）
 ③ S 3（V 3 リーグ）：750人以上（長野GaRons／須坂市）

総合体育館のコンセプト



施設規模

現在の総合体育館の規模(=面積)を基本に、不足する機能を追加します。



建設場所

■ 建設場所検討にあたっての配慮事項

(1) 現在の総合体育館の利用

現在の総合体育館は非常に利用率が高く、大会の開催も多いため休止期間があると本市のスポーツ環境全体に与える影響が非常に大きくなります。

(2) 指定避難所としての機能維持

指定避難所としての機能を、空白期間なく維持する必要があります。

■ 建設場所検討にあたっての条件

- ・ 新たな総合体育館の完成・供用開始後に、現在の総合体育館を解体
- ・ 新たな総合体育館の工事期間中、施設・公園利用者の動線を確保



現在の総合体育館とアクアウイングの間に新たな総合体育館を建設

アクアウィングとの一体整備

建替える総合体育館に隣接するアクアウィングは同時期(令和7(2025)年から令和8(2026)年)に長寿命化改修を予定しているため、総合体育館の建て替えとアクアウィングの長寿命化改修は一括施工により行うものとします。

一括施工のイメージ	一括施工による効果
	■ 工事エリアの共有化による効率的な工事 工期の短縮等により、両施設トータルでの工事費削減が可能 ■ 両施設の工事進捗管理が容易 動線の速やかな変更が可能となり、施設・公園利用者動線の安全性を確保できる ■ 両施設の設備の共有化が可能 共有による工事費の削減、両施設の維持管理一元化

施設整備後の維持管理・運営

公園全体を一体的に維持管理・運営を行うことで、公園全体の利用状況を踏まえたサービスが可能となり、市民の利便性の向上が図れるほか一元管理による災害等緊急時の即応性、人員配置の効率化、公園全体を使った幅広い活用が期待できることから整備後も現在と同様に公園全体で一体的に維持管理・運営を行います。

長野運動公園内の施設				長野運動公園外の施設
・ 総合体育館 ・ ゲートボール場 ・ 屋外トイレ	・ アクアウィング ・ 陸上競技場 ・ マレットゴルフ場	・ 弓道場 ・ 野球場 ・ 芝生広場	・ 運動広場 ・ テニスコート ・ サブトラック 他	・ 西和田テニスコート ・ 北部市民プール

Ⅲ 事業手法

PPP/PFI 導入可能性調査

- 調査期間 令和3(2021)年7月～令和4(2022)年3月
- 委託事業者 (株)建設技術研究所
- 調査結果 VFMの数値

管理・運営範囲	BTO(PFI手法)	DBO(PPP手法)
新総合体育館のみ	2.4%	2.7%
公園全体	3.7%	3.9%

〈参考〉
PFI手法を導入したスポーツ施設の
VFM平均値(国等資料による)

約10%

VFMは比較的低い → 導入メリットが少なく、施設の修繕など参加事業者の運営にあたってのリスクも高い

事業手法

■ PFI手法の導入について

- ・ VFMが低く、導入するメリットが少ない
- ・ PFI法に基づく手続きが必要となり、令和10(2028)年の国民スポーツ大会に間に合わない



PFI手法は採用しない

■ 採用する事業手法について

- ・ 既に指定管理者制度が適用され効率化が図られているため、運営事業者が設計の段階から民間ノウハウを活かせる余地は少ない
- ・ 大会に間に合うよう最短で竣工できる手法を採用する必要がある



【PPP手法】
DB(設計・施工一体型)方式

■ 維持管理・運営について

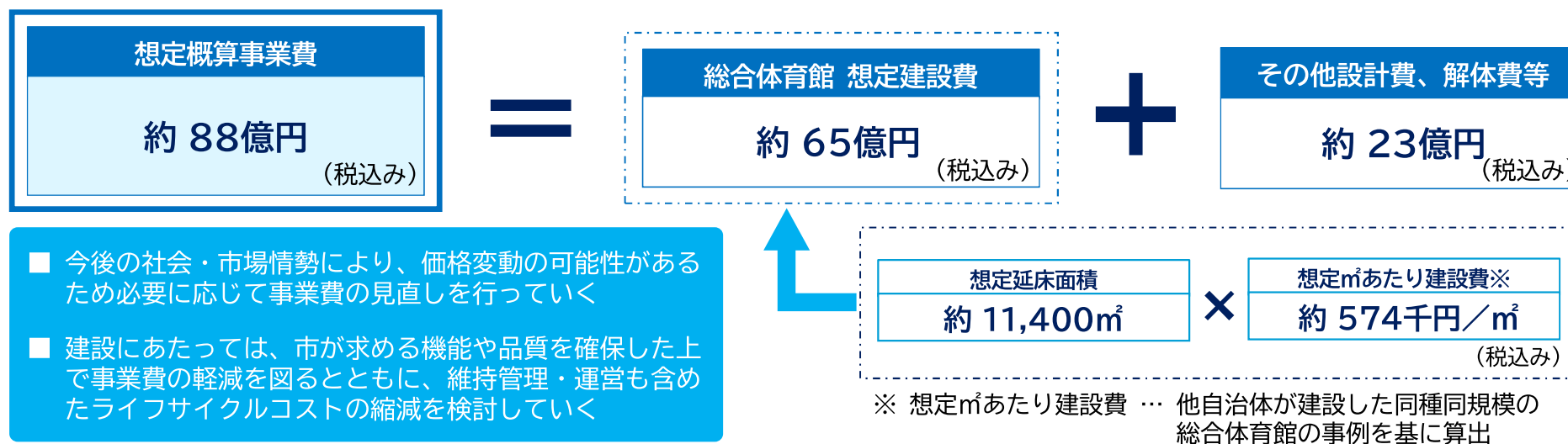
- ・ 長野運動公園全体で一体管理することで効率的な維持管理・運営が見込める



長野運動公園全体で指定管理者
制度を適用

IV 事業計画

概算事業費等の想定



事業スケジュールの想定

